



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
1/12 (月)				成人の日			
1/13 (火)	+ 2,200	▲ 9,000	▲ 6,800	国庫短期証券発行償還 (3M・6M)	国債補充供給 +5800		日：貿易収支 (11月) 米：CPI (12月)
1/14 (水)	+ 2,000	▲ 14,000	▲ 12,000				日：城内経済財政担当相が「日本の経済財政政策」 について講演 米：PPI (10・11月) 小売売上高 (11月)
1/15 (木)	+ 2,000	▲ 30,000	▲ 28,000	国債発行 (5年・個人) 源泉税揚げ			日：国内企業物価指数 (12月) 欧：ユーロ圏鉱工業生産 (11月)
1/16 (金)	+ 2,000	+ 2,000	+ 4,000				日：片山財務相が日本記者クラブで会見 米：鉱工業生産 (12月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比4,700億円増加の471兆4,400億円から始まった。その後、国債買入オペや法人税・消費税・保険料揚げ等の要因により増減し、9日は467兆4,000億円 (速報) で越えた。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.727%から始まった。その後もビッドサイドの調達意欲は底堅く、同金利は横ばいで推移した。

ターム物は1W～3W物0.710%～0.860%のレンジ、1M～3M物0.780%～0.920%のレンジで出が見られた。

来週の予定は、国内では13日に貿易収支 (11月)、15日に国内企業物価指数 (12月) の公表、16日に片山財務相が日本記者クラブで会見、海外では13日に米CPI (12月) の公表、16日に米鉱工業生産 (12月) の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.700 ～ 0.728
1M	0.775 ～ 0.85
2M	0.78 ～ 0.85
3M	0.83 ～ 0.90
6M	0.95 ～ 1.10

<レポ>

足許GCは週を通して+0.74%～+0.755%の狭いレンジで取引された。買い入れオペのあった7日や、短国の発行が重なった9日の取引も水準に変化は見られなかった。

SC取引は2年470～479回債、5年155～181回債、10年356～371、378～380回債、20年110～130回債などに引合いが見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.70%台
CP 3M	0.80 ～ 1.00

<CP>

今週 (12/29-1/9) の入札発行総額は約1兆8,715億円で、週間償還額の1兆3,230億円を上回った。発行残高は、12/26時点の25兆3,815億円から、1月8日時点で24兆6,943億円へと減少した。発行市場では、小売業・建設業・石油製品をはじめとする幅広い業種で、大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で0.70%台後半から0.80%台、3か月物で0.80%台から0.90%台など、幅広い水準での取引が確認された。

来週の償還額は、約1兆4,940億円となっている。発行市場は、期明けの調達再開と、5・10日発行が予定されることから、引き続き相応の発行が見込まれる。発行レートは、日本銀行が利上げを継続していく姿勢を示しているため、引き続き水準を慎重に見極める展開となるだろう。

<TDB>

6日の3M (1353回債) の入札は、最高落札利回り0.7004% (前回債0.6828%)、平均落札利回り0.6926% (前回債0.6667%) となった。

8日の6M (1354回債) の入札は、最高落札利回り0.7739% (前回債0.7023%)、平均落札利回り0.7697% (前回債0.6942%) となった。

9日の3M (1355回債) の入札は、最高落札利回り0.6987% (前回債0.7004%)、平均落札利回り0.6755% (前回債0.6926%) となった。

来週の入札は16日に3Mが予定されている。

本資料は投資環境に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。